

講義名	卒業研究
講義コード	14058
担当教員	岩崎 久志
開講期・曜日・時限	通年 月曜日 4時限
備考	

## ゼミ

3. 学部ゼミ・学科ゼミ

## 学部

7. 人間社会学部

## 学科

;#人間社会学科;#観光学科;#人間健康学科

## 演習名

岩崎久志ゼミナール(対人援助論)

## 概要説明

社会福祉をはじめ、誰かを支える専門分野には、いろいろ領域があります。医療、看護、心理、介護、教育、…。これらはひとくくりにして、広く「対人援助」と呼ばれています。今日のように社会の構造が複雑になり、人びとの暮らしのあり様も多岐にわたってくると、対人援助の領域もますます細分化していき、それぞれの特徴がぼやけてしまいがちになってきます。それは社会福祉も例外ではないようです。社会福祉分野における援助の方法・技術のことをソーシャルワークといいますが、みなさんは「ソーシャルワークってなに？」と高校時代の友だちから尋ねられたとしたら、うまく答えられますか？またさらに、「ソーシャルワークとカウンセリングって、どう違うの？」「社会福祉と介護福祉はどうなの？」などと質問されたら、それこそどのように説明されるでしょうか。おそらく多くの人が、このような疑問に対して、あまり適切なよい明確な答えを示すことは難しいと感じるのではないのでしょうか。私の演習では、ここで触れたような基本的な問いから出発し、ソーシャルワークの固有性とその意義についてじっくり考えていきたいと思います。その上で、各メンバーがそれぞれの関心領域を見いだし、広く対人援助に関わるテーマについて、一緒に考えを深めていける場をつくっていただけると考えています。

## 学位

博士(臨床教育学)

## 教員よりの要望

私からゼミ生の皆さんに対しては、ヒューマンサービスを学ぶ上での基本的な視点を提供したいと思っていますが、ゼミ生の皆さんからも私に大いに刺激を与えてもらえると嬉しく思います。

## 教員英字氏名

Iwasaki Hisashi

## 研究室

研究棟 5409研究室

## 最終学歴

武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士後期課程修了

## 主な研究活動・社会活動・研究業績

- 『教育臨床への学校ソーシャルワーク導入に関する研究』(単著、風間書房、2001年)
- 『心理療法を終えるとき』(共著、北大路書房、2005年)
- 『産業心理臨床入門』(共著、ナカニシヤ出版、2006年)
- 『看護・チーム支援に活かすカウンセリング』(単著、晃洋書房、2014年)
- 『ストレスとともに働く』(単著、晃洋書房、2017年)
- 兵庫県立神戸高等技術専門学校スクールカウンセラー
- 社会福祉法人神戸いのちの電話研修委員
- 豊中市学校教育審議委員

## 主な卒業論文のタイトル

- \* 恵まれない出産に起因する虐待の防止に関する一考察
- \* アダルト・チルドレンの回復過程における自覚の重要性
- \* 大学生の結婚観に関する一考察
- \* 若者の自願予防支援に関する一考察
- \* 我が国における介護福祉サービスの展望と課題
- \* 不登校児童に対するメンタルフレンドによる支援の有効性について
- \* 軽度発達障害児の支援における現状と課題
- \* 施設入所児童とのコミュニケーション
- \* 音楽療法の可能性について
- \* 母子家庭の状況と母子生活支援施設の現状

## 趣味・特技

趣味は、月並みですが読書と音楽鑑賞です。本は何でもありますが、音楽は主に1960年代、1970年代の洋楽が中心です。最近は1950年代のブルーノート・ジャズにも目覚めてきました。

## 所属

人間社会学科心理コース

## 所属学会

日本心理臨床学会、日本社会福祉学会、日本カウンセリング学会、日本ソーシャルワーク学会、関西教育学会、日本応用心理学会、日本学校ソーシャルワーク学会、日本臨床教育学会、武庫川臨床教育学会、日本生徒指導学会

## 専門分野

カウンセリング、臨床福祉学、教育福祉論

## 選考方法

みなさんの自己紹介書類の内容、既得単位・成績の内容、さらに面接にもとづいて判断します。これらの要素のどれかに偏るのではなく、いろんな視点から評価したいと考えています。私の演習を履修するために、あらかじめ受講する必要がある科目は特にありません。広く対人援助の領域に関心を持った人がゼミに集まってほしいと思います。

## 担当科目

社会福祉援助技術演習(ソーシャルワーク演習) ・ 、社会福祉援助技術論(ソーシャルワーク論) ・ 、臨床心理学、研究演習 ・ 研究演習 ・ 卒業研究

## 備考

岩崎ゼミを選んだのは、ソーシャルワークについてできるだけ幅広く学びたいと考えたからです。みなさんも一緒にゼミを盛り上げていきませんか？(4回生、K.O.)

## 評価方法

ゼミ活動は個人による発表だけではなく、いくつかのグループに分かれての作業も行います。したがって出席を重視し、ゼミへの関わり方やグループ活動、プレゼンテーションの出来はえ等を総合的に評価します。なお、欠席・遅刻をしないことは大前提です。